

17年度 サンゴ礁保全対策事業（オニヒトデ駆除）実績

市町村名	駆除事業費	駆除海域	駆除数	駆除回数	重点海域の状況
名瀬市	514,000	摺古崎	140	6	摺古崎周辺の大浜礁原及び礁斜面にオニヒトデが増加していたため、摺古崎への進入を阻止するため、大浜を重点的に駆除。 駆除を重ねる毎に駆除数及び食痕も減ってきており、摺古崎への進入を阻止できた。 駆除したオニヒトデの個体は殆どが20cm以下の個体で、水深5m以下では、殆ど見られない状態になった。
笠利町	828,000	用安	352	3	
		節田	427	4	
		蒲生崎	135	2	
宇検村	816,000	屋鈍	80	6	駆除水深5m、サンゴ被度は25-49%
		生勝	180	6	駆除水深7m、サンゴ被度は25-49%
瀬戸内町	9,266,000	安脚場・黒崎	9,266	133	
龍郷町	816,000	嘉渡	2,626	9	ソフトコーラルを食しているオニヒトデを多数確認。ハードコーラルは、すべて食い尽くした感あり。
		円	138	1	オニヒトデは秋名方面へ移動したと見られ減少している。サンゴは全滅した感がある。
		円オアシス	34	3	円地区では、サンゴは壊滅的な状態で、餌がなくオニヒトデは見られなかった。
		採石場前	5	1	この地域のサンゴは消滅状態なので、オニヒトデもほとんどいない。
		大仏サンゴ	11	1	ハマサンゴが多いエリア。オニヒトデの食害は見られたが、個体は見られなかった。
		鯨浜先	2	2	ハマサンゴが多いエリア。オニヒトデの食害は見られたが、個体は見られなかった。
		武運崎	1,208	4	名瀬方面へ向かっていくほどオニヒトデが多くなっていった。
		秋名	105	1	秋名側のオニヒトデは、武運崎方面へ移動したと見られ数が減少している。
イカリ浜崎	2	1	外洋からの侵入ではなく、湾内で成長したと思われる小さな個体であった。サンゴはハマサンゴが主体である。		
徳之島町	1,048,000	畦	764	18	
天城町	994,000	ツインポイント	20	14	サンゴ被度は、昨年比べてあまり変わっていない。再生しかかった「キクメイシ」サンゴの上で、ヒトデを確認。
伊仙町	816,000	面縄港東側	181	2	サンゴが少なくなってきている。まさ、白くなって被害が大きい。
		喜念崎	70	1	サンゴの裏にくっついていたり、オニヒトデがサンゴに巻き付いている。
		目手久	101	1	昨年に比べ穂にヒトデは小さめだが、サンゴが白くなって死んでいる。
		佐弁	274	2	昨年よりサンゴが白くなり、数多く死んでいる。
和泊町	866,000	美瀬	371	7	駆除水深1～5m。サンゴ被度25-49%。所々に新しい食害が見られるカ所に、オニヒトデは発見されない。オニヒトデのサイズは、ほとんどが30cm以下が中心となっている。
		南栄	77	2	サンゴ被度25-49%。ソレイシイガイが多かった。
		西原	0	1	サンゴ被度50-75%。オニヒトデは発見できなかった。
		根折	0	1	サンゴ被度50-74%。オニヒトデは発見できなかった。
知名町	504,000	沖泊	105	2	
		屋子母	118	2	
		屋者	62	1	
		瀬利覚	30	1	
与論町	750,000	茶花沖（B&G）	50	4	駆除水深2-3m。20cm未満の個体が多い。
		茶花沖（水路）	50	4	駆除水深2-3m。
		赤崎南東	62	4	
		赤崎北東	54	4	
		百合が浜沖	43	4	
		湯浜沖	45	4	
合計	17,218,000		17,188	262	

注：瀬戸内町は、ボランティアによる駆除、町単独事業等を含む。